

# 博多独楽

独楽芸という曲芸も生み出した美しく精巧なつくりの博多独楽

「お正月には、凧あげてこまをまわして遊びましょう」そんな童謡に描かれた風景も今は昔。最近では、通りで独楽をまわして遊ぶ子どもの姿を見るのも稀になりました。もともと独楽は、世界各地で古くから親しまれてきた遊びです。日本には今から1300年ほど前に、中国から竹製の唐独楽が伝わってきましたのが最初とされています。

その唐独楽を元に、日本発祥の独楽として発展して出来たのが「博多独楽」。その特徴は、木台に鉄芯を打ち込んだ「心棒」を使っているところです。鉄の心棒に麻ひもを巻きつけて、強く引いて遊ぶのですが、芯棒に鉄を使っていることで回転のバランスが格段によく保たれ、振れが少なく安定した回転を続けることができます。この安定性を活かした、「扇の先や刀にのせて回す」という独楽芸という曲芸が生まれました。

博多で生まれた独楽芸は、初めは九州を中心に行ないますが、その後、京から江戸へと広まり大ブームとなります。天



三代目筑紫珠楽氏。筑前博多独楽で工芸品と伝統芸能を受け継いでいる。

皇の御所に招待されて披露されるほどの芸として榮えましたが、幕府によつて禁令が出てきたことにより、その文化はだんだんと寂れていきました。しかし、明治の時代に筑紫珠樂によって、独楽芸は再興されます。今では博多独楽は、工芸品の独楽だけではなく、県の無形文化財に指定されている伝統芸能を意味するものとして受け継がれています。

樹齢を経た椿の木を原料に総漆で仕上げられる独楽は、乾燥から入れると約5年の歳月をかけて作り上げられるそう。その美しく精巧なつくりも一見の価値あります。

## 取材協力



## はかた伝統工芸館

博多独楽の実物を見ることができる「はかた伝統工芸館」。他にも博多織や博多人形など福岡・博多の伝統工芸が展示されています。

〔住〕〒814-0001  
福岡市早良区百道浜3丁目1-1  
福岡市博物館2階

URL <http://hakata-dentou-kougeikan.jp>

